

市史編さん室 事務局活動報告

(平成二十三年一月～二月)

I 古文書等調査報告

一 古文書等調査の概況

市史編さん室では、各専門部会活動の資料とするため、市内にある古文書等の史料について、目録作成・写真撮影等の基礎的な調査を行っている。

平成二十三年一月から二月の間に、二二件の文書群(総点数七九〇九点)について調査を終えた(一部を除き、次項にそれぞれの文書群についての解説を付した)。これで、平成一九年度より約一〇〇件(総点数三〇〇〇点超)の調査を終えたことになる。なお、平成二十三年一月末日段階で、一七件(総点数三七〇〇点超)の史料群を借用しており、現在、調査を進めている。ほかに、熊谷市で所蔵している二〇件(総点数二一〇〇〇点超)についても、随時、調査を行っていく予定である。

二 調査終了文書の紹介

妻沼小島 野村好輝家文書 五点

所蔵者からご連絡をいただき、平成二十三年(二〇一〇)一月一七日に所蔵者宅にて調査を行った近代文書である。野村家は、糸繭商だった。文書のうち、四点は一つに軸装されており、内容は妻沼歎喜院への奉納に関する文書である。明治二〇年(一八八七)に野村権三郎が歎喜院へ大額一面と金五円を奉納した。その奉納額の製作は、群馬県新田郡尾島村(現太田市尾島)の彫物師高沢政治郎が行っている。歎喜院と周辺地域の関係を考えるうえで重要な史料となろう。

原島 後藤肇家文書 二点

所蔵者からご連絡をいただき、平成二十二年(二〇一〇)一月二一日に借用した近世・近代文書である。後

藤家の先祖は、大坂の陣で活躍した後藤又兵衛の子孫で、江戸時代になると上州安中藩士だったという。近世文書は「先祖書」・「覚書」の二点で、ともに後藤家歴代の略歴が記されており、貴重な史料である。なお、安中藩関係文書のなかにも同家に関連した史料が確認できる。近代文書は昭和二〇年(一九四五)「戦中日記」の一点で、所蔵者の父が出征してヤップ島(現、ミクロネシア連邦)にて病死するまでの手帳である。平成二十三年一月一九日に文書の調査を終了して返却した。

飯塚川田善也家文書 九五点

所蔵者からご連絡をいただき、平成二十二年(二〇一〇)七月二〇日に借用した近世・近代文書である。一部分は所蔵者によって整理がなされており、その成果を尊重しながら整理作業を行った。川田家は代々兵七を名乗り、画家の川田春益を輩出した家でもある。近世文書が三点、近代以降の文書が九二点と、近代文書が文書群の大半を占める。内容は、近殿神社などの村社に関するものや、飯塚の墓地管理に関連し

て墓石の位置と姓名や享年などをまとめたもの、尋常小学校にあたる修徳小学校分教場の設置に関するものなどがある。また、明治二十九年(一八九六)に作成された「川田兵七一代記」が興味深い。天保二年(一八三一)生まれの房五郎(兵七)は、幕末・維新时期を生きた。水戸天狗党の乱では、慶応元年(一八六五)に領主の旗本深津喜三郎の御供として出村し、褒美に玄米一俵・紋付羽織一枚を下賜されている。維新に際して家を相続し、村委員・墓地管理者・衛生組長などを勤めた。この文書には、先祖・子孫の親子・婚姻関係なども整理されている。全体的には、寺社に関係した文書の多い点の特徴であろう。平成二十三年二月一五日に文書の調査を終了して返却した。

弥藤吾 個人所蔵文書 二点

所蔵者からご連絡をいただき、平成二十二年(二〇一〇)二月二六日に借用した近代の絵図である。所蔵者の先祖は、弥藤吾村の助役を勤めていた。絵図は「弥藤吾村、戸耕地整理施行地区確定図」・「妻沼村組合土地一筆限実測絵図帳(弥藤吾)」の二点である。とも

に、近代の弥藤吾村に関する数少ない土地絵図であると考えられる。なお、後者の絵図は綴られていたが、絵図の多くが剥離していたため、簡単な修復作業を行った。本紙のしわを伸ばし、剥離していた絵図断片を照合しながら糊付けした。糊は天然糊を使用した。ただし、借用した時点で裏打ちされていたものも多少あり、その分については、そのまま保存した。平成二三年四月一日に文書の調査を終了して返却した。

筑波柳澤家文書 一二六七点

熊谷市立熊谷図書館の紹介で、平成二十一年(二〇〇九)一月一日に借用した近世・近代文書である。柳澤家は、寛永期から熊谷宿に居住したとされ、江戸時代には太物(綿織物)や絹織物を商っていた。明治になると尺度製作所を開設し、熊谷町役場の筆生、衛生委員等を勤めた。近世文書が一二〇点、近代文書が一四七点で、初見は宝暦一〇年(一七六〇)「熊谷町辰御年貢可納割付之事」である。近世文書では、「永代録」(二冊)・「肝要録」が特に重要である。前者は、文政一二年(一八二九)〜文久元年(一八六一)までの家の出

来事を中心にとめた記録史料で、後者は家に関する近世後期の文書を控えたものである。近代文書では、政治・行政・土地・鉄道・度量衡・諸産業・文化などがあつた。政治・行政では、明治九年(一八七六)に竹井澹如らから内務卿大久保利通へ出された「群馬埼玉両県併合ノ再建議(写)」が重要である。また、明治三〇年ころの埼玉県庁を浦和町から熊谷町へ移転する問題に関する文書がまとまっている。運動の「規約書」や「日誌」などが遺されており、柳澤定平が専務委員などを勤め、積極的に移庁運動に参加していたことがわかる。他には、絵地図として明治二九年「熊谷町大字熊谷吉岡村大字村岡境界実測図」等がある。度量衡に関係した文書では、尺度売捌先の二ヶ所である飯能村(現飯能市)と富岡町(現群馬県富岡市)とのやりとりが確認できる。文化では、挿花に関係する文書がまとまっており、花道免許状・秘伝書や披露会に関する文書などがあつた。柳澤定治は正風遠州流で柳窓庵華燕として活動していた。熊谷町には遺された近世・近代文書が少ないなかで、本文書群は大変貴重な史料であるといえよう。平成二三年五月二六日に文書の調査を終了し

て返却した。なお、同家の歴史資料(モノ資料)は熊谷市立熊谷図書館に寄贈されている。

新堀個人所蔵文書 三七七点

市史編さん室から依頼して、平成二二年(二〇一〇)八月一二日に借用した近世文書である。市史編さん室の設置前に、熊谷市立熊谷図書館が二度にわたって調査を行っていた。所蔵者の先祖は、近世に新堀村の村役人を勤め村政に深く関わる。初見は天保七年(一八三六)「借用金子請取覚帳」である。内容は、堰や水番といった用水に関係する帳簿や、年貢取立帳といった帳簿類が散見する。文書群は新堀村の用水関係の一端を明らかにするものといえよう。平成二三年七月五日に文書の調査を終了して返却した。

本石志村忠夫家文書(追加分)三六六点

一次調査の終了後、平成二二年(二〇一〇)五月一二日に追加分として借用した近代文書である。志村家は、江戸時代前期から代々町医者を勤めている。一次調査分の三点(『熊谷市史研究』創刊号、二〇〇九年、参

照)を含めると、合計三九点になる。内容は、大正・昭和初期の当用日記、診断書類、医学書類が中心である。近代における町医者の具体的な史料である。平成二三年八月一〇日に文書の調査を終了して返却した。

川原明戸明道寺文書 一三四六六点

飯田恒文氏の紹介で、平成二十一年(二〇〇九)七月一五日に借用した近世・近代文書である。明道寺は浄土宗の寺院であるが、明道寺にて川原明戸村の文書を保管してきたという経緯があるため、本文書群の大半は村方関係の文書である。近世文書が一七点、その他は近代文書で、初見は天和三年(一六八三)「田畑屋敷水帳」(二冊)である。近世文書では、文化一一年(一八一四)の年貢割付状や、天保三年(一八三二)の村絵図や、寛政二二年(一八〇〇)の五人組帳などがあり、年代は限られるが、主要な村方文書が揃っている。近代文書では、政治・土地・租税・用水・農会・社寺に関するものが多い。大字費の帳簿が明治二四年(一八九二)以降まとまっている。また、荒川から取水する大麻生・奈良・玉井堰の分水口があるという立

地から、用水堰の管理・運用の文書も多く、玉石の採取、川除の工事、河岸の修繕などに関するものがある。社寺では、諏訪神社の文書が多く、鎮守祭礼の文書がまとまっている。平成二三年八月一八日に文書の調査を終了して返却した。

葛和田大龍寺文書 九点

平成二二年(二〇一〇)一〇月一六日、「資料編2」編集のための調査として、中世専門部会の齋藤慎一専門調査員・柴崎啓太特別調査員及び事務局が、現地において調査・写真撮影を行った。大龍寺は、何度か火災に遭っており、現在も残っている文書類は、九点とのことである。(年不詳)「幡随意白道書状」(熊谷市指定文化財)は、大龍寺の開山で熊谷寺の中興でもある幡随意白道から、嶋采女と鈴五郎兵衛宛ての書状で、嶋田采女正は、大龍寺の開基とされる人物である。幡随意白道自筆の慶長一〇年(一六〇五)「筆名号」、(年不詳)「筆山号」、(年不詳)「世代書」(熊谷市指定文化財)とあわせて、大龍寺の創建のみならず、中近世移行期の浄土宗各派の教線を考える上でも重要な史料といえる。元禄八年(一

六九五)「大龍寺講釈願覚書書写」には、本寺増上寺が借用した旨の奥書があり、江戸時代の両寺の関係を窺うことができる。ほかに、朱印状の写が四点ある。

深谷市個人収集文書 四五点

深谷市から連絡を受け、平成二二年(二〇一〇)八月二五日・十一月八日、同二三年二月一四日と三回にわたって借用した近世・近代文書である。所蔵者は、深谷市在住の郷土史家で、熊谷市に関係する文書を中心に調査させていただいた。近世文書が三五点、近代文書一〇点で、初見は文禄四年(一五九五)「武州原郡深谷之内十六間村御縄打水帳」である。これは、熊谷市域に現存する検地帳の中でも大変古いものである。明治一八年(一八八五)「剣術英名」は、神道無念流の新井則治に関するもので、大里郡三本村(現熊谷市)の門人長谷川亀三郎が作成した横半帳である。他には「熊谷蓮生房絵伝」や、明治期の地租改正関係の布達綴り、地券心得書等がある。また一部、深谷宿(現深谷市)、八日市村(現児玉郡神川町)に関する文書も含まれている。平成二三年十一月一日に文書の調

小泉田所常行家文書 二二六六点

旧大里町から借用していた文書と新たに所蔵者からご連絡をいただいた文書を、平成二〇年(二〇〇八)九月一日・同二二年一月二六日・同二三年一月二五日と三回に分けて借用した近世・近代文書である。一部は大里村史編さん事業の調査で目録が作成されており(『大里村史調査報告書 第一集 近世史料目録I』、一九八四年)、それに増補するかたちで調査を行った。田所家には、本家と常行家(分家)があり、本家は小泉村の名主・戸長を勤め、常行家は市田村(明治二二年小泉村他一〇村が合併して成立)の書記を勤め、質屋を商っており、本文書群には両家の文書が含まれている。近世文書が七〇二点、近代文書が一五六四点で、初見は寛永一四年(一六三七)「上吉見之内小泉村丑御成ヶ割付之事」である。内容は近世文書では貢租・村況・水利などがあり、近代文書では行政・社寺・土地・土木・商工業・交通・教育などに関するものがある。近世では特に年貢割付状・年貢皆済目録が近世前期から幕末までまとまっている点が特徴である。他には明和元年(一七六四)「村明細帳」

等が小泉村の概況を知りえる好史料といえる。近代では市田村役場の勤務日記・出勤日記などが貴重である。また、明治四五年(一九一二)「庚申塚松樹保存二関スル請願」では耕地整理の結果老松樹の保存を願う里道の一部変更を願ったものがある。商工業では「熊谷鑄工株式会社定款」や「近栄堂合資会社規約」等の出資のための営業記録が残る。近世・近代を通じた小泉村を知る上で貴重な文書群であるといえる。平成二三年一二月一二日に文書の調査を終了して返却した。

板井篠場喜一家文書 五二点 138頁参照

葛和田荒川宗一郎家 一七七点 140頁参照

川原明戸中嶋忠一郎家文書 一七四〇点 142頁参照

最後に、古文書の調査をさせていただいた所蔵者の皆様に厚くお礼申し上げます。

(文責 栗原健一 水品洋介 蛭間健悟)

Ⅱ 民俗基礎調査報告

一 民俗基礎調査の実施

熊谷市史別編『民俗』の基礎調査として、平成一六年度より七つの分野の調査を熊谷・妻沼地域で実施し、平成二三年度で終了する。

調査は妻沼地域の「衣生活」を対象とし、平成二三年四月一三日に妻沼中央公民館において、調査委員一六名の委嘱を行った。調査は七月末まで実施いただき、その後事務局で取りまとめた。

衣生活調査

戦前・戦後、先後の高度成長期と時代の節目となる時期において大きな変化が見受けられる。調査ではその生の状態が証言とともに古写真の中に記憶されていた。戦前では、布を織るところから縫製するところまで自家製が多く和服が基本であったが、学校や勤務者が増えるとともに洋装が増えていく。しかし、簡単なものは自家製という姿勢から、裁縫学校や地域の教室で学ぶ女性の姿が多かった。戦時下から戦後の一時期まで

耐乏生活の間を越え、大量生産の衣料が供給されるに至り、地域を支えた衣料・縫製業や染色業などの地域産業が衰退していく様子もかいまみられた。このような変化が調査の要から窺われる。

二 調査報告書の刊行

民俗編第七集『住生活・交通・交易(妻沼編)』

A4版 三六五頁

第一章 調査の経緯と質問事項

第二章 総論 住生活・交通・交易(妻沼地域)調査概観

第三章 調査表

調査員二一名

調査件数 三三件

発行 平成二三年三月三十一日

一部千円で有償頒布

(文責 新井 端)

Ⅲ 行政文書の整理・保存

熊谷市文書管理規定に基づき保存期限満了の行政文書が一括廃棄される際に、市史編さん室では歴史史資料として重要な文書を収集保存してきた。

本年度は平成二三年三月末で保存年限満了となる文書から、保存箱数で一八七箱分の文書等を収集し選別整理、保存作業を行っている。大部分が平成期の文書等であった。

ほかに、旧大里町分として昭和四〇年代にかかる社会教育などの文書群を収集した。

(文責 新井 端)

Ⅳ 考古資料の整理・報告

考古専門部会では発掘された考古資料に加えて、採取資料や個人保存の資料中に重要な資料があることを確認しており、これらの遺物や記録を資料化することを計画していた。事務局では部会からの指示に基づき選別・抽出資料を写真撮影し、実測図を作成するなどの作業を進めた。

平成二二年度から引き続き、中条鎧塚古墳出土須恵器・埴輪等、大里船木遺跡出土弥生式土器等、中条遺跡群出土中世遺物、飯塚古墳出土埴輪などの実測図作成等を実施した。なお、今年度以降妻沼地域を中心にした個人収集遺物のリスト作成後、資料化を計画している。

(文責 新井 端)

10・4	熊谷寺、上川上等石造物調査	11・19	妻沼聖天山資料調査
10・8	第二回考古専門部会会議(熊谷図書館)	11・22	熊谷図書館「齋藤氏と聖天堂展」展示資料調査
10・13	栃木県足利市荒井映吉家(妻沼)文書返却・借用	11・23	中世石造物調査(玉井玉井寺)
10・15	中世石造物調査(別府)	11・25	埼玉県仏像調査カード返却(県立歴史と民俗の博物館)
10・17	埼玉県埋蔵文化財収蔵施設保管資料(中世)調査	11・29	埼玉協視察研修会(昭和館、国立公文書館)
10・22	第二回古代専門部会会議(大東文化大学板橋キャンパス)	12・4	第四回考古専門部会会議(妻沼展示館)
10・23	日向島田道郎家、葛和田大龍寺文書調査	12・4	妻沼地域考古遺物調査
10・25	間々田青木克公家文書追加借用	12・8	埼玉県行政文書調査(県立文書館)
11・1	熊谷図書館「齋藤氏と聖天堂展」講演会講演	12・8	駒澤大学所蔵文書調査
11・1	県立歴史と民俗の博物館から資料返却	12・11	中世石造物調査(別府)
11・1	料返却	12・15	駒澤大学所蔵文書調査
11・3	村岡・万吉中世遺跡等調査	12・18	中世石造物調査
11・4	立正大学古文書研究会学園祭展示へ文書貸出(11・7返却)	12・20	市史編さん委員会(中央公民館)
11・11	第一回近世専門部会会議(立正大学大崎校舎)	12・23	第三回古代専門部会会議(大東文化大学板橋キャンパス)
11・12	第三回考古専門部会会議(大里文化財収蔵庫)		
11・13	中世石造物調査(西別府安楽寺)		
11・15	深谷個人収集文書返却		
11・15	男沼飛田佳洲家文書寄附申出		

(注1) 本業務日誌は、事務局が関わったものについて記載しています。

市史編さん室からのお願い

古い文書や写真をお持ちではありませんか？

現在、市史編さん室では、熊谷市に関する古い文書や写真を所有する方のご協力をいただき、調査を行っています。

以下の古い文書や写真を所有している方は、熊谷市史編さん室まで御連絡ください。訪問して、実地調査をさせていただきます。

調査の対象

- 一 文書 太平洋戦争以前のもの。
- 二 写真 戦後まもなくまでの熊谷の行事や風景を撮影したもの。

調査させていただいた古文書や写真については汚れ等を落とし、長期保存が可能な封筒や箱に詰めさせていただきます。また、古文書については、目録を作成して贈呈いたします。

市史の編さんには、市民の皆さんの御協力が不可欠です。なにとぞ、宜しくお願い申し上げます。



写真にあるような封筒と箱に詰め替えてお返しいたします。資料の長期保存が可能になります。